

令和 7 年 10 月 23 日
総合政策局海外プロジェクト推進課
大臣官房参事官（イノベーション）グループ

ウクライナの建設現場での遠隔施工技術の普及に向け 現地でデモンストレーションを行いました！ ～日本発の技術でウクライナの復興に貢献～

国土交通省では、今後のウクライナにおける国土交通分野のインフラ復興への日本企業による参画を加速させるため、本年 1 月に「日ウクライナ・国土交通インフラ復興に関する官民協議会」（JUPITeR）※を設立するなど、ウクライナの復興支援を行っています。

ウクライナでは、今後膨大な建設需要が見込まれる一方、人手不足が深刻化しています。この問題に対処するため、国土交通省は、日本で培ってきた遠隔施工技術をウクライナに導入し、男女問わず誰もが安全な環境から建設機械を操作できるようにすることを目指しています。

今回、国土交通省は官民合同でウクライナに渡航し、国連機関関係者、ウクライナ政府関係者、地方自治体関係者等を対象に、技術実証を兼ねたデモンストレーションイベントを開催しました。将来遠隔施工技術に携わることが期待される関係者に体験していただいた結果、参加者からは遠隔施工技術をウクライナのインフラ復興事業に導入することに大きな期待が寄せられました。

※ Japan - Ukraine Platform on the Infrastructure Technology for Recovery and Reconstruction

デモンストレーション開催結果（写真は別紙のとおり）

（１）日 程 令和 7 年 10 月 9 日（木）

（２）会 場 キーウ工科大学（ウクライナ・キーウ）

（３）参加者（合計約 80 名）

（主催者側）

- ・小島 優 国土交通省 大臣官房審議官
- ・民間企業 八千代エンジニアリング（株）、（株）ソリトンシステムズ、
コーワテック（株）、コベルコ建機（株）

（参加者側）

- ・マリナー・デニシウク ウクライナ地方・国土発展省 次官
- ・中込 正志 駐ウクライナ日本国特命全権大使
- ・国連機関 UNDP（国際連合開発計画）、UNEP（国際連合環境計画）、UN Women 等
- ・その他 ウクライナ政府関係者、地方自治体関係者 等

（４）内容

- ・デモンストレーション会場からキーウ及び神戸市に設置された建設機械（会場からそれぞれ約 25km、約 8,000km）を遠隔で操作しました。ウクライナ的环境でも、日本で培った遠隔施工技術によって建設機械が問題なく動作することを確認しました。
- ・イベント参加者に実際に遠隔操作を体験してもらい、技術の有用性をアピールしました。
- ・参加者からは、遠隔施工技術のウクライナへの早期導入に向けた期待が寄せられました。

【問い合わせ先】

○デモンストレーション全般に関すること

総合政策局海外プロジェクト推進課 菅井、松尾、大槻

電話：03-5253-8111（内線 25806、25819、25815）、03-5253-8315（直通）

○遠隔施工に関すること

大臣官房参事官（イノベーション）グループ 中根、松沢

電話：03-5253-8111（内線 22434、22435）、03-5253-8286（直通）

○デモンストレーションの様子



小島審議官挨拶



デモンストレーション会場の様子



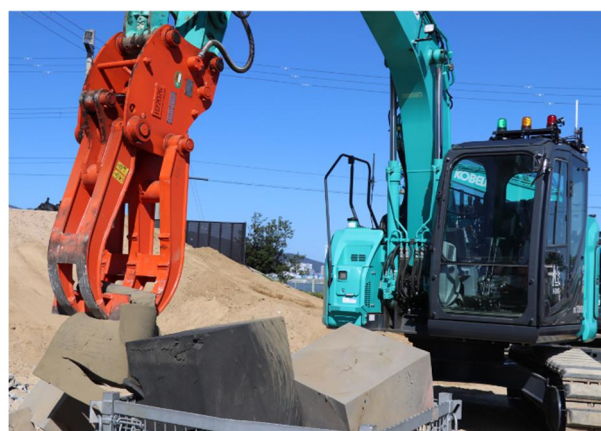
操作体験の様子



操作体験の様子



無人で動く建設機械（キーウ）



無人で動く建設機械（神戸市）

○技術情報

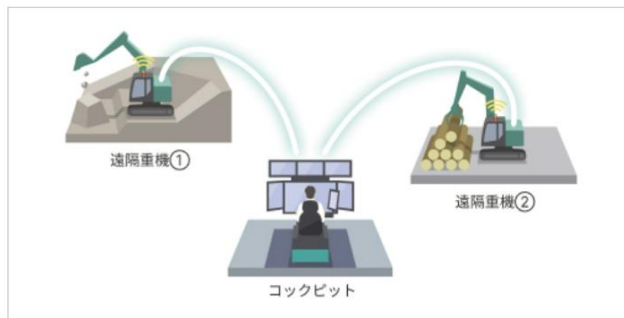
- ・遠隔施工機能内蔵型機械 : 遠隔操作システム : K-DIVE (コベルコ建機株式会社)



コックピットから遠隔重機に簡単接続

事前登録した作業エリアと遠隔重機を、手元モニターで選択するだけで接続が可能です。

専用に開発したモーションシートにより、重機の振動や傾きを感じられ、エンジンの動作音や機械の作業音、ホーンなどの音の情報も得られるので、遠隔操作であっても、まるで現場で作業しているかのように操作できます。



1台のコックピットで複数重機を操作可能

1台のコックピットから、複数重機を切り替えて遠隔操作することができます。

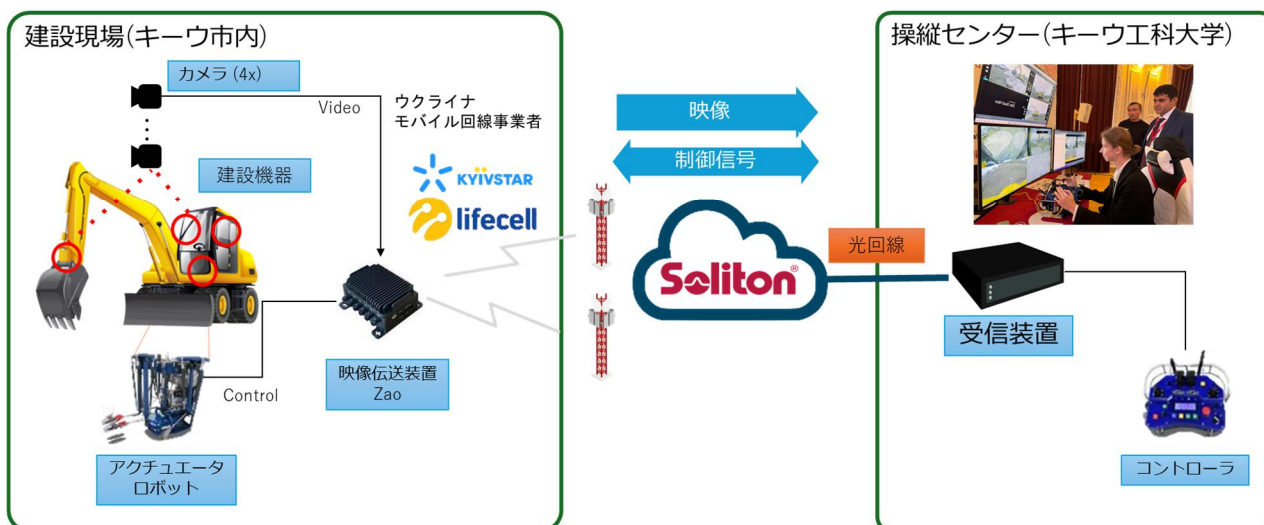
待機時間はもちろん、現場への移動時間も省き、人員配置や工程管理の効率化に貢献します。

- ・遠隔施工機能取付型機械 :

アクチュエータ : アクティブロボ SAM (コーワテック株式会社)

映像通信システム : Zao シリーズ、Zao Cloud 等 (株式会社ソリトンシステムズ)

構成



○デモンストレーションの構成



操作
→



※地理院地図を加工して作成